

研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE) 審査・評価委員会
標準活用加速化支援事業分科会 議事結果概要

1. 開催日時・場所

日時：令和5年5月10日（水）16：30～18：30

場所：Webex（内閣府本府庁舎3階326）

2. 委員

・上山隆大座長

（総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員 [常勤議員]、元政策研究大学院大学教授・副学長）

・渡部俊也委員

（知的財産戦略本部 有識者委員、東京大学執行役・副学長・未来ビジョン研究センター教授）

・立本博文委員

（知的財産戦略本部 構想委員会委員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授）

3. 議事・結果概要

(1) 令和5年度標準活用加速化支援事業について

スケジュール等について、分科会として了承。

(2) 標準活用加速化支援事業実施方針案の決定方法について

決定方法について、分科会として了承。

（参考）決定方法

標準の戦略性、標準活用の効果、継続性、投資誘発効果の4つの視点を6段階（A～F）で評価し、合計点で支援対象を決定（150点満点）。1以上の最低評価（F）又は2以上の低評価（E）があった場合、合計点に関わらず、支援の対象外とする。

(3) 令和5年度標準活用加速化支援事業の対象施策について

支援対象とする13施策及びその配分額等について、実施方針（案）として決定。

評価内容や指摘事項を担当省庁に報告し、担当省庁で各施策に反映予定。

4. 参考（分科会での主なコメント）

①医療機器に関する国際標準化（厚生労働省）

- ・医療機器として、マイクロニードル、脱細胞化生体組織ともに、社会実装のための国際標準化を進めるべき重要なテーマ。
- ・関連企業群との間でのコンソーシアムの組成は、この事業で目指す国際標準化には欠かせない要素。
- ・マイクロニードルに関する韓国の動向、ISO、ASTM等の関心の高さを踏まえ、迅速な対応が必要。

②再生医療等製品（安全性等の評価方法）に関する国際標準化（厚生労働省）

- ・今まで積み重ねてきたIPS細胞研究を踏まえ、国際標準化の施策により社会実装と市場創造を行う意義は大きい。
- ・IPランドスケープ調査、安全性評価方法の開発等の興味深い調査が行われている。
- ・市場での競争状況や競争環境を踏まえ、知財・標準化戦略を十分に検討して整えて、市場形成の観点から進めることを期待。

③ヘルスケアプロセス管理に関する国際標準化（厚生労働省）

- ・デジタルヘルスケアシステムの国際標準化による社会実装は非常に重要であり、まず国内でのデータの「二次利用」を見据えた標準化を推進し、その上で国際標準化するとの道筋を進めることが重要。
- ・システム開発が日本企業の国際市場の拡大や日本の産業競争力向上につながるよう、IP ランドスケープ調査、海外市場調査、産業構造調査等を踏まえ、知財・標準化戦略を十分に検討して整えて、市場形成の観点から進めることを期待。

④物流分野での国際標準化（国土交通省）

- ・コールドチェーン物流の国際的な社会実装拡大のための国際標準化は、我が国の物流サービスの優位性と今後の東南アジア向けの市場拡大に鑑みて、非常に重要な施策。特に東南アジア市場で投資効果は大きい。
- ・中国からの国際標準提案数が近年急増している中での取組であり、中国・韓国からの提案を実際に受けている現状では、十分に政策的意味があり、迅速な対応が必要。推進体制も整っている。
- ・国際標準化団体での他国の提案、その背後にある動機や理屈を把握することができ、対抗措置を行う点が評価できる。標準の戦略的な活用と整合。

⑤LNGバンカリングでの安全対策・緊急時対応に係る指針の国際標準化（国土交通省）

- ・海運のカーボンニュートラル推進のテーマとして重要であり、LNG燃料船の社会実装拡大に必要なLNGバンカリングの国内ガイドライン（技術基準等）の整備は、国際標準化の基盤となる。
- ・LNG燃料船の導入やLNGバンカリングの拠点整備が国際的に急速に進展し、国際安全基準の整備の進展が見込まれ、IMOでも安全対策指針の検討に着手する中で、迅速な対応が必要。
- ・日本の関連産業の国際ビジネス拡大に向けて、国際市場形成や日本企業に有利な市場環境整備を行う道筋について調査・検討を行い、その下で推進することを期待。

⑥航空機・装備品の環境新技術に関する国際標準化（国土交通省、経済産業省）

- ・航空機産業のカーボンニュートラル化を契機とし、環境新技術（電動化、水素航空機、軽量化）の社会実装のための国際標準戦略により、航空機・装備品の国際市場への参入機会を新たに得ようとする施策として、極めて重要な標準戦略のテーマ。
- ・脱炭素に対応した航空機・装備品における日本の技術に親和的な国際市場形成を目的に、旧技術世代から新技術世代への移行期において、国際標準化による戦略的な活用により国際市場を獲得するものとして非常に重要。
- ・環境新技術に関する国際標準化に向けた議論は徐々に始まっており、迅速な対応が必要である中、IPランドスケープ調査による技術優位性の調査・分析、国際標準化や市場競合に関する動向の調査・分析、連携相手の検討等を踏まえ、国際標準化とこれによる国際市場の獲得拡大を推進することを期待。

⑦鉄道技術に関する国際標準化（国土交通省）

- ・鉄道インフラ輸出は我が国の重要な輸出産業分野であり、鉄道インフラ技術に関する国際標準の戦略的な活用として、非常に重要なテーマ。
- ・過去の英国市場への参入事例等も踏まえ、鉄道技術の国際市場展開の道筋とその中で国際標準をどのように活用するのかを含めた、知財・標準化戦略の検討を期待。

- ・技術基準比較・分析表の作成は必要である一方、知財・標準化戦略の検討の中で本質的課題の調査・検討を併せて行うことを期待。

⑧洪水リスクの評価方法と軽減策に関する国際標準化（国土交通省）

- ・防災・レジリエンスに関する技術の社会実装のための国際標準化は、我が国の経済安全保障の観点でも重要な領域であり、迅速な対応が必要。
- ・水災害リスクの評価・削減策はインフラシステムの海外展開に重要な分野であり、国際標準化により市場形成を図ることができる。民間企業のみ任せおいた場合に、水災害関連の国際市場を形成することは難しく、産業政策的な意味がある。
- ・IPランドスケープ調査による技術優位性の調査・分析、海外市場調査によるターゲット領域の特定、産業構造調査による競合企業の特定等を通じて、国際市場の形成と日本の産業競争力強化の道筋を勝ち筋として明確化することを期待。

⑨強靱なインフラに関するガイドラインの国際標準化への対応（国土交通省）

- ・日本がこれまで進めてきた防災の考え方とは異なる、日本に不利な国際標準提案を是正・排除して、対抗策を措置することは非常に重要であり、国際標準機関で審議中の状況にあるため、迅速な対応が必要。
- ・日本に不利な国際標準提案を是正しなければ、日本の関連産業が将来の防災市場・インフラレジリエンス市場へのアクセスが出来なくなる危険性があり、この機会に関連業界が国際標準戦略の取組をより高めることを期待。
- ・今回の対抗策を措置する過程で、日本の主張に対して国際的な理解やコンセンサスを広げることが重要。

⑩気候変動により深刻化する水防災分野において科学技術と現場の実践をつなげる「ファシリテータ」に係る国際標準（国土交通省）

（2以上の低評価（E）があったため、配分対象外）

- ・水防災は重要な分野だが、ファシリテータの人材育成に関する国際標準化の意義が不明。
- ・産業界や民間企業との接点や担い手の民間企業が不明であり、提案内容に産業政策的な観点が見当たらない。
- ・国際公共政策的な意味合いが強く、日本の産業競争力向上への効果が不明。

⑪低たん白加工処理玄米の包装米飯の製造工程管理方法に関する国際標準化（農林水産省）

- ・低たん白加工処理玄米の浸透と国際的な市場形成を図るものとして、日本のライフスタイルを輸出する点でも、戦略的な分野として重要。
- ・東南アジアへの農産品輸出市場は近年拡大傾向が高まっており、本件での国際標準化はそこへの政策的な打ち込みとして非常に重要。
- ・コメやコメ加工製品の輸出のライバル国であるタイで、健康機能性のあるコメについてメディカルライスとして国際標準化を検討し始めているとの状況からも、迅速な対応が必要。日本の産業競争力向上につながることを期待。

⑫スマート農機のデータ交換規格に関する国際標準化（農林水産省）

- ・農業生産現場、そしてフードチェーン全体でのデータ・プラットフォームを構築するのに必要な国際標準化として、非常にインパクトが大きい。諸外国の動向・関心などを踏まえ、重要なタイミングにあり、迅速な対応が必要。

- ・スマート農業は東南アジア諸国でも広く展開されつつあり、日本の技術が社会実装されてそこに切り込む点で、農業分野での我が国の輸出にこの国際標準化は非常に重要。タイをはじめアセアン地域への横展開も期待できる。
- ・今後、日本の得意分野となる可能性が高い、リアルな生産現場とデータやサイバーが融合したCPS（サイバーフィジカルシステム）案件であり、その成功例となることを期待。

⑬農業分野でのGHG削減・吸収技術に関する国際標準化（農林水産省）

- ・農業分野において環境関連技術を社会実装して国際市場形成を図るものとして、非常に重要。対アセアンでの戦略的な意義も大きい。
- ・GHG削減・吸収技術の海外移転による排出削減量のクレジット化に関する日本の事業者の動きやアセアン諸国での関心の高さが確認されており、国際標準化により認証スキームの構築や国際的な調和を図り、国際市場拡大につなげていくことを期待。
- ・稲作農業でのGHGに関する技術開発は今後とも重要であり、社会実装のターゲットの対象とする市場について、状況に応じて柔軟に設定し、国際市場形成や日本の産業競争力向上を実現することを期待。

⑭高精度3次元地図データに関する国際標準化（経済産業省）

- ・ダイナミックマップは、戦略的に重要な分野としてSIPで注力してきたプロジェクトであり、その社会実装を国際標準化により促進するものとして、非常に重要。
- ・自動走行や自律移動モビリティに関する市場として、欧州企業をはじめ激しい国際競争が今後想定される中、国際標準化を迅速に行い、日本の産業競争力向上を図る必要がある。
- ・知財・標準化戦略を十分に検討して整えて、勝ち筋のある進め方をより明確化して推進することを期待。

以 上